

令和 5 年度 県立坂東清風高等学校自己評価表

目指す学校像	1 普通教育・専門教育を通して、確かな学力を育み、未来を創造する力を持った人材を育成する学校 2 個に応じた学習を通し、高い専門性と実践力を培い、社会において生きる力を備えた人材を育成する学校 3 地域との連携・交流を通して、地域愛・協働する力を育み、地域のニーズに応え郷土の発展に貢献できる人材を育成する学校		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成
岩井高校と坂東総合高校の歴史と伝統を継承し、坂東清風高校としては 3 年目を迎え、3 月には第一期生の卒業生を送り出すことができた。 学習面では、少人数での授業展開や ICT 機器を活用した授業展開を行い、学習意欲の向上や基礎学力の定着を図っている。 特別活動では、生徒が積極的に参加できる学校行事を生徒会とともに考えたり企画・運営したりすることで、生徒の自主性が少しずつ育まれ、学校への帰属意識が高まってきている。部活動においては、県大会で入賞したり関東大会に出場したりする生徒が出てくるなど学校の活性化にもつながっている。 地域で信頼される学校づくりを目指し「Let's 坂東清風」の発行や定期的な中学校訪問等、積極的な情報発信を行ってきたが、募集定員確保には至っていない。近隣の中学校では、卒業する生徒数が減少傾向にある。学校説明会や広報活動の中で、本校の特色である総合学科・農と食科の情報発信に努め、本校をより一層理解してもらい、坂東市及び近隣からの志願者数の増加を目指したい。	ア 個に応じた学習指導を通じた基礎学力の向上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ② 観点別学習状況の評価の浸透を図る。 ③ より効果的に ICT 機器を活用することで学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 ④ 各種検定試験の合格者を増加させる。 ⑤ 相互授業参観や他校視察等の取り組みを通して、学習指導の工夫・改善を図る。	
	イ 個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実	⑥ 職業観・勤労観を形成し、自己目標を明確化させるため、個別面談の充実を図る。 ⑦ キャリアカウンセリングや地域と連携したインターンシップ等の体験的活動により、生徒の進路意識を高める。 ⑧ 基礎力の定着や学習能力の向上を図るため、課外体制の充実に努める。 ⑨ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。 ⑩ 生徒・保護者への情報提供や参加型の行事の充実を図り、進路意識を高める。	
	ウ 人間性・社会性を養う教育活動の展開	⑪ 学校生活をとおり、自らを律するとともに、他者との協調性を培う。 ⑫ 学校行事や部活動など様々な場面で、自己有用感や自己肯定感を高め、母校愛を育成する。 ⑬ 各種講演会や面談をとおりして生徒の自己理解・自己指導能力を育成し、問題行動や事故の未然防止に努める。 ⑭ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する意識を育てる。	
	エ 特別活動・広報活動の活性化	⑮ 生徒が主体的・積極的に参加できる学校行事を企画・運営する。 ⑯ 各部活動の加入率を高める。 ⑰ ホームページや学校説明会を充実させ、本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。 ⑱ 定期的に中学校訪問を行い、中学校との連携を深め、志願者の増加に努める。 ⑲ キャリア・パスポートを活用し、生徒の自己理解の深化に努める。	
	オ 働き方改革の推進	⑳ 業務内容の整理や情報の共有、OA 機器の活用などを通して、校務の効率化に努める。 ㉑ 「勤怠管理システム」の活用などを通し、職員一人一人の働き方についての意識を高め、健康と安全を確保する。 ㉒ 部活動において週当たり 1 日以上の日休養日を設けるなど、職員の時間外勤務の縮減に努める。	
	カ 授業改善の推進	㉓ 生徒による授業評価を用いて、授業満足度の平均値の年度内（1 回目から 2 回目）での上昇を図る。 ㉔ 授業改善推進チームを中心に情報の共有や校内研修等の充実に努める。	

三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	確かな学力を育み、未来を創造できる人材の育成 地域と連携・交流を通して、地域愛を育み、地域のニーズに応え郷土の発展に貢献できる人材の育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	自ら課題を見つけ、それを解決しようとする過程においての生きる力の育成 キャリア教育の充実を図り、個の希望に応じて大学進学から就職までの多様な進路希望の実現			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	人文、自然、情報ビジネス、ライフデザイン、農業の各分野に興味を持ち、進路実現のために努力する生徒 学校や社会の規範を守り、学校行事や部活動に積極的に取り組むことのできる生徒			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	国語	国語の基本的な知識や技能の定着および向上を図る	生徒の興味・関心を引く授業展開のため、ＩＣＴの活用や指導領域に沿った言語活動などを積極的に取り入れ、評価と一体化した指導内容になるよう工夫する。ア②③ 小テスト等を有効に活用し、習熟度に応じた学習課題などを与えることできめ細かな指導の推進を図る。イ⑧		
		生徒の実態を踏まえ、わかりやすい授業を展開する	生徒に身に付けさせたい能力を活用できる題材を精選し、到達度を明確にした授業づくりに努める。ア①② 基礎学力の確実な定着を図るとともに、個々の学力に応じた目標を設定する。ア①		
		生徒の進路実現のために必要な国語力の定着を図る	課外の実施や各種検定試験等の受験を推進することで、各種検定試験や上級学校への進学に対応できる程度の学力の向上を図る。ア④イ⑧⑨		
		授業改善の推進を図る	授業毎の振り返りシートや校内で実施する授業評価を基にした生徒の評価、および相互授業参観を通じた教員からの評価を踏まえ、様々な視点から授業力の改善および向上を図る。ア⑤力③		
		基礎学力の向上を図る	生徒の実態を踏まえ、ICTの活用や教材の工夫により社会への興味・関心を高める。ア①②③ 生徒が社会生活を営む上で必要とする一般常識を身に付けさせる。ア①③		
	地歴・公民	社会的な見方・考え方の育成	社会事象における疑問を生み出し、探究活動を通じて主体的に学習に取り組ませる。ア① 既習事項や他教科との関連性を意識し、知識の構造化を図る。ア①③ 道徳教育を通じて、社会のなかで他者と協調する力を養う。ウ⑪		
		進路実現	検定試験の実施を推進し、上級学校や就職試験に対応できる力を養う。ア④イ⑨		
		授業改善の推進を図る	授業評価の結果を基に、生徒の実態に合わせ授業力の向上を目指す。カ③ 相互授業参観を通じて、教員間の情報共有を図り、連携をとる。ア⑤		
		基礎学力の向上を図る	「生徒の主体性」を大切にするため、板書、発問の仕方、電子黒板・タブレットの活用、課題プリントなどを工夫する。ア①③ 放課後や長期休業中の補習を活用し、理解の十分でない生徒への知識の定着を図る。ア③イ⑧		
	数学	問題を解く力を養う	生徒の学力に応じた適切な問題を選択し、放課後課外等を活用し演習させる。ア①イ⑧ 問題演習時間を十分に確保し、生徒間の教え合いを促し、やる気を喚起する指導を行う。ア①③		
		授業時の理解度を把握する	机間指導や問題集・ノート・ワークシートの点検、授業後の自己評価により理解度の把握に努める。ア①② 小テストや課題等を利用して生徒の学習状況を把握する。ア①②		
		授業改善の推進を図る	定期的に授業アンケートを行い、生徒の実態や意見を参考にし、授業改善を図る。カ③ 相互授業参観を通して、教員間の連携を図り、情報共有を密にしていく。ア⑤		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	理科	理科への興味・関心を高め基礎学力の向上を図る	I C Tの活用や、板書や教材の工夫により、理科への興味・関心を高める。ア③⑤		
		自然や科学技術の理解を深め理科の見方・考え方を養う	授業中に小テストや振り返りを行い、繰り返し学習することで知識の定着を図る。ア③		
		観点別評価の更なる浸透に努める	意見交換やI C Tを活用した意見集約、自己評価など、言語活動や探究活動の充実を図る。ア①③		
			観察・実験を計画的に実施し、理科の見方・考え方を身につけさせる。ア①イ⑨		
			教科内の評価方法の共通理解を図り、生徒の実態に応じた適切な評価を行う。ア②		
			指導と評価の一体化による授業改善や生徒の意欲向上を図る。ア②カ⑳		
	保健体育	授業改善の推進を図る	生徒の振り返り・授業評価や、教員間の情報共有・意見交換をもとに、今求められる授業の形を明確にし、それに向けた改善を行う。ア⑤カ㉓㉔		
		単元計画目標を明確に提示し、生徒の実態に応じた授業を展開する	単元ごとの具体的な目標を提示し授業を展開する。ア①		
			視聴覚教材の活用や授業の振り返りにICT機器を使用し、効果的に授業を展開する。ア③		
			運動能力の把握と個に応じた指導を充実させる。ア①⑤		
		時間や約束事の厳守、活動時間の確保と授業内容の充実を図る	授業開始時間を守らせる。ウ⑪		
			挨拶の励行、運動に適した服装や態度を身につけさせる。ウ⑪		
	芸術	運動を中心とした健康的な生活習慣を確立させる	種目ごとのルールを理解させる。ウ⑪		
		授業改善の推進を図る	授業後のうがい、手洗い、消毒等、健康面や衛生面について指導する。ウ⑪		
			運動と休養をうまく組み合わせ、健康を保持増進する能力を高めさせる。ウ⑪		
			生徒による定期的な授業評価、振り返りを行い、より生徒の実態、ニーズにあった授業展開を図る。ア⑤カ㉓		
		基礎的・基本的な技能の習得を図る	基礎的・基本的な練習課題を充実させ、作品に取り入れられるようにする。ア③		
			机間指導を行い、生徒の理解度を把握し、適切な助言指導を行う。ア①		
	外国語	のびのびとした表現活動ができるようにする	生徒の実態に即した教材の精選と教材研究に努め、授業の展開方法を工夫する。ア①⑤		
		I C Tを活用し、学習活動の充実を図る	生徒間の学び合い・話し合い活動の場を設定し、表現の仕方を深める。ア①		
		授業改善の推進を図る	パワーポイントを活用し学習内容の焦点化を図り、生徒の活動意欲を高める。ア③		
			タブレットを活用し、学習進度にあった視聴覚教材を充実させ、わかる授業につなげる。ア③		
			生徒による授業評価をもとに、題材の修正・再立案を行い、生徒の実態やニーズにあった授業展開を図る。ア⑤カ㉓		
		基礎学力の向上を図る	生徒一人ひとりの理解度に応じて細部まで指導が行き渡る授業を実践する。ア①⑤		
	英語		パフォーマンステスト等の活用・課外の充実等により、英語の基礎力の定着と、検定試験や上級学校への進学に対応できる学力の向上を図る。ア②④イ⑧⑨		
			同じ科目や学年担当教員との連携が取れるように定期的に話し合いの場を設け、授業内容や進度について意見交換をする。ア①⑤		
		家庭学習の習慣を身につけさせる	定期的に課題を提示し、回収点検をする。また、生徒全員が期限を守って提出するように指導徹底する。ア②③		
			長期休業中に課題を課し、検定試験合格や大学進学のための基礎作りを行う。ア③④イ⑧⑨		
		授業を通して英語や日本語でコミュニケーションをとる喜びを実感させ、コミュニケーションの素地を作る	A L Tとのティームティーチング等を通して、生徒が英語圏の文化に興味関心を持つような授業を展開できるように工夫する。また、表現活動を充実させて、自分たちの英語が通じることを実感させる。ア①②③		
			グループ学習やペア学習を導入することによって、「協働的な学び」の喜びを実感させる。ア①②		
			様々なICT教材や新しい指導法などを積極的に活用し、生徒の興味関心を高める工夫をする。ア③		

		授業改善の推進を図る	生徒の振り返り・授業評価や、教員間の情報共有・意見交換をもとに、今求められる授業の形を明確にし、それに向けた改善を行う。ア⑤カ②④⑤		
--	--	------------	--	--	--

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教 科	家 庭	生活に必要な基礎的・基本的な知識技術を習得させる	日常生活に関わる基礎的・基本的知識や技術を習得させるため、生徒の実態に合わせた授業内容・学習活動を検討する。ア①		
			各種検定の内容を実技指導に盛り込むことで、検定の受検意欲を高める。ア④イ⑨		
			電子黒板・タブレット等のICTを活用し、興味関心を高めると共に理解しやすい指導に努める。 ア①③		
		実験実習を取り入れたわかりやすい授業を展開する	実験実習の指導に実技テストを導入し、実技の習得向上を目指す。ア③		
			生徒が興味をもって取り組めるワークシートを検討し、工夫改善をする。ア①		
		家庭生活の充実向上を図るための指導を工夫する	ホームプロジェクトの実施により、生活分野における実践力の向上に努める。ア① 研修会や講習会に参加し、学んだことを生徒への指導に生かす。ア①		
		授業改善の推進を図る	相互授業参観により、授業の改善及び授業力の向上に努める。ア⑤		
	情 報	ソフトの基本操作を身につけさせる	文書作成ソフト・表計算ソフトについて基本的な知識・技能を習得させる。ア①② ICTを活用し、活動的な学習を取り入れ、学習意欲の向上を図る。ア③		
			情報機器の種類と特徴を指導する。ア①		
		情報を活用するための工夫をする	個別実習を通して生徒が主体的に情報機器を活用できるようにする。ア①		
		情報社会について理解を深め、情報モラルを身につける	インターネットやSNSの活用方法や情報を共有する決まりを指導する。ア①⑤イ⑥		
			ネットワーク社会のルールとマナー、情報モラル等を具体例を用いて指導する。ア①⑤		
		授業改善の推進を図る	様々な補助教材を活用し、足りない部分を少しでも補いながら、授業を展開していくことができるようにする。		
	農 業	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTを活用して基礎学力の定着をさせる。	生徒一人一人の能力に応じた授業を展開し、興味関心を高める。ア①③⑤イ⑧		
		特色ある施設・設備を生かし、実験実習の充実を図り、勤労の尊さを自覚させ、就業体験等を通して働く喜びを体得させる。	様々な体験を通し、望ましい勤労観・職業観を養成し、働く喜びを体得させる。ア①イ⑥⑦		
		各専門教科を通し、生徒が自ら資格取得に取り組むことができる意欲を育てる	各専門授業において関連する資格への興味関心を育て、受験意欲を育てる。ア④		
		農業クラブ活動の充実を目指し、様々な場面で活躍できる生徒を育てる。	教科科目において自ら課題を持ち、課題解決のための基礎的・基本的な知識と技能を習得することにより、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。ア①③イ⑧⑨ウ⑪⑫エ⑰⑱		
		授業改善の推進を図る	相互授業参観を取り入れ、授業方法の改善及び授業力の向上に努める。カ④		
		基礎的・基本的な知識、技術および技能を身につける	ビジネスの諸活動を円滑に行うため、帳簿記入の必要性を理解させ、帳簿の記録・計算・作成を習得させる。ア①②③イ⑧ アプリケーションソフトの基本操作を習得させる。ア③		

	商 業	資格取得や有用な各種検定を ととして、知識、技術および 技能を定着させる	資格取得に意欲を持たせ、主体的で意欲的な学習を定着させる。 ア④イ⑧⑨		
		ビジネス活動で必要とされる 能力と態度を身につけさせる	ビジネスの諸活動に広く関心を持たせ、その意義や役割の理解を深め、主体的に学習に取り組めるよ う望ましい心構えや態度を身につけさせる。ア①		
		授業改善の推進を図る	相互授業参観やT. Tの授業により、授業の改善及び授業力の向上に努める。ア⑤		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教 務	円滑な学校運営に努める	各学年、校務分掌、教科と連携を密にし、円滑な学校運営に努める。		
	授業改善の推進や観点別学習状 況評価の浸透を図る	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について理解を深めると共に、I C Tを活用し た指導方法の充実に努める。ア①②③ 生徒による授業評価の結果を活用し、授業改善の推進に努める。ア⑤カ②③④		
	授業時間の確保に努める	授業終始時間の厳守に努める。ウ⑪ 職員の出張・年休の際は振替を100%行い、授業時間の確保に努める。		
	広報活動の充実に努める	学校新聞の発行やホームページの更新など、生徒の活動を地域に発信する。エ⑰ 定期的に中学校訪問を行い、学校の情報提供を充実させる。エ⑱		
	校務のI C T化の推進	職員が円滑に成績処理等が行えるよう校内の情報機器を管理したり支援したりする。オ⑳ Google Driveを有効に活用し、業務の効率化を進める。 オ㉑		
	情報セキュリティ対策の推進	職員のセキュリティ対策に関する手順や規定の周知を徹底する。		
生 徒 指 導	基本的生活習慣の確立	登校指導を含め、普段から生徒に積極的に声をかけていく場面を増やす。ウ⑪⑫ 校外内での生徒の服装・態度について、社会通念上妥当なレベルを維持できるよう指導する。 ウ⑪⑫		
	場面に応じた対応ができる生徒 の育成	チャイム着席の徹底。ウ⑪ 丁寧な言葉遣いができるよう指導する。ウ⑪⑭ 集会等の全体行動をととして自主性・自律性を育てる。ウ⑪⑫⑬⑭		
	交通安全指導の充実	定期的な安全点検も含め、自転車通学者、原付バイク通学者の安全意識を高める。ウ⑪⑬ 原付バイク通学者に対して実技指導を実施する。ウ⑪⑬		
	問題行動の予防	普段から生徒動向の把握に努め、些細は変化を見逃さないように注意する。ウ⑪ 必要に応じて、各種見回り指導を実施する。ウ⑪ 交通安全講話、薬物乱用防止講話、スマホ安全利用教室等の各種講話を実施する。ウ⑪⑬		
	いじめの未然防止、早期発見、 早期解消	自主的・自立的行動を意識させ、自身を律する能力を高める。ウ⑪ 「いじめはすべての学校に起こりうる」という認識で、日々の教育活動の中で注視していく。ウ⑪ 当事者およびその保護者に適切に対応し、早急にいじめ状態を解消に努める。ウ⑪		
	関係機関との連携	保護者との連絡を密にするとともに、必要に応じ警察等の専門機関にも相談する。ウ⑬		
	生徒指導関連研修の充実	職員研修を実施し、指導方法等の共通理解に努め、組織的に対応できるよう努める。ウ⑬		
	教育相談の充実	スクールカウンセラーを積極的に活用し、助言・指導を頂き生徒理解に努める。ウ⑪⑫⑬		
	進路意識及び学力の向上	進路希望調査、進路適性検査や個別面談等を実施し、自己理解と進路意識の向上を図る。イ⑥⑦ 進路情報の収集・生徒への適切な情報提供を行い、進路相談の充実を図る。イ⑥⑩ 進路希望に合わせた課外指導や外部模試、各種検定試験の設定、自習部屋の開放等を行うことで学 習環境の充実や学習の活性化を図る。ア④イ⑧⑨ 各種模擬試験の事前・事後指導の充実、学習状況や学習到達度を踏まえた課外指導を行い、学習意 欲の継続化を図る。イ⑧		
進				

路 指 導	個々の進路希望に応じた指導の 充実	生徒の適性や進路希望に基づいた計画的、組織的な進路ガイダンスを実施する。イ⑥⑦⑧		
		地域と連携したインターンシップ活動を行い、生徒の主体的な職業選択を支援する。イ⑦		
		模擬面接や個別指導を充実させることで、入社試験・入学試験の際に求められるコミュニケーション能力や人間性・社会性を養う。イ⑥		
		生徒一人ひとりに寄り添った個別指導を行い、望ましい進路選択の手助けをする。イ⑥⑦		
	より良い進路選択のための、教 職員・生徒および保護者との連 携の強化	P T A総会や保護者面談、ホームページ等を通じた情報発信を行うことで、保護者の進路理解を深め、進路実現に向けた連携・協力体制を整える。イ⑩		
		教員対象の大学説明会や研修等へ積極的な参加や情報共有をうながすことで、教員の指導力を高め、生徒に還元する。イ⑩		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
保 健 厚 生	健康に関する自己管理意識の向上	各種検診等を通して、自らの健康の維持増進に関する自己管理意識を高める。ウ⑬		
	校内の環境整備と清掃活動の充実	定期的に修繕箇所の点検を実施する。		
		清掃用具の在庫確認と各清掃区域の用具を整備する。		
		大掃除やクリーンプロジェクト等の機会を利用し、清掃活動の充実を図る。ウ⑬		
	防火・防災訓練	具体的なマニュアルを作成し、非常時に対応できる訓練を実施する。エ⑮		
	保健・厚生委員会の活発化	学校行事での保健活動、各種統計処理、保健意識の啓発、各種健康学習の推進（保健）エ⑮		
		環境整備活動への協力、E C O活動の推進（厚生）エ⑮		
特 別 活 動	生徒一人ひとりが生き生きとした学校となるための学校行事の創造	生徒が積極的に参加できる学校行事を企画、運営をする。エ⑮		
		学校行事を通して、集団への所属感やクラスの連帯感が深められるよう支援する。ウ⑪⑫		
		生徒が成就感・達成感を得られるよう学校行事を工夫する。ウ⑫ エ⑮		
	生徒会活動の活発化	本部役員に「生徒による自治」を意識させ、自覚と責任を持たせることにより主体的に活動できるようにする。エ⑮		
		「各クラスでの話し合い→委員会→生徒会行事」という形を確立する。エ⑮ 生徒の自主的・自発的な活動を支援する。エ⑮		
	部活動の活性化	部員に対し、技術・生活・学習面での指導を徹底し、生徒との信頼関係を深める。エ⑮⑯ 部活動紹介、体験入部の充実を図り、部活動の加入率を40%以上にする。エ⑯		
	生徒が主体的に自己理解を深める	学年行事やホームルーム等を通して、生徒自身が主体的に学んだことを振り返りながら、自己評価を行い自己理解を深める。エ⑳		
図 書	図書館利用の推進	生徒や職員から購入希望の本を調査し、良書を選定する。エ⑰		
		図書委員会の活動と新着本の情報を随時、ホームページで更新する。エ⑰		
		季節に合わせて館内を飾ったり特集を組むなどして、明るく居心地の良い図書館をめざす。エ⑰		
	図書部主催の文化的行事の充実	生徒や職員が楽しめるように、芸術鑑賞会の演目や文学散歩の行き先などを吟味する。エ⑮		
		図書委員が広報紙『ポプラ』を定期的に発行できるように、係職員が指導する。エ⑰		
		図書委員会の活動を活発化させ、責任感があり自主的に行動できる生徒を育てる。ウ⑪		
	視聴覚機器・資料の充実と有効利用	H Rや授業で使えるDVDを選定し、有効活用を進める。ア③ 視聴覚機器の保守と整備を充実させる。ア①③		
渉 外	P T A活動の活性化	P T A総会を開催するとともに、進路指導部と連携して、保護者向けの進路講演会を実施ことができるよう調整し、P T A総会の出席率を4割以上にする。イ⑩ ウ⑫ 本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したP T A活動の実施に努める。ウ⑫		
	広報活動の充実	P T A会報を発行し、学校概況や全国高P連などの活動状況を発信する。エ⑰		
		ホームページにP T Aのページを作成し、P T A活動の情報を発信する。エ⑰		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
第1学年	基礎学力の向上と進路希望決定に向けての支援に努める	チャイム着席と授業準備を徹底し授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①ウ⑪		
		中学校内容の学び直しを意識し、基礎学力向上のための支援を行う。ア②		
		「産業社会と人間」や進路活動を通して、生徒の適性と進路希望に添った指導に努める。イ⑥⑩		
	教室内外の環境整備に努める	清掃の徹底を図る。ウ⑪		
		教室内の生徒私物の管理を徹底させる。ウ⑪		
		公共の場での振る舞いや公共物を大切にする心の育成に努める。ウ⑪		
	基本的生活習慣の確立を図る	自らを律する力を意識させることで、場面に応じて適切に対応できる能力を育てる。ウ⑪⑬		
		挨拶の励行に努める。ウ⑪		
		時間を守る態度を育てる。ウ⑪		
	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	常に制服を正規着用できるよう声かけをしていく。ウ⑪		
		学校行事や部活動に積極的に参加し、自らを律し他者と協調して共に成長する連帯感を養う。ウ⑫エ⑬		
		言葉遣い、問いかけに対する誠実な返答等の礼儀指導に努める。ウ⑪		
		他者への思いやりの心を育てる。ウ⑪⑬		
第2学年	基礎学力の向上と進路希望決定に向けての支援に努める	自己指導能力を高めさせ、正しい判断のもと、適切な行動がとれるよう働きかけるウ⑪⑬		
		チャイム着席と授業準備を徹底し、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①ウ⑪		
		学力向上のために、ICT教材などを工夫して活用し、必要に応じた学習支援を行う。ア③		
	教室内外の環境整備に努める	生徒の適性と進路希望に添った指導に努める。イ⑥⑦		
		清掃の徹底を図る。ウ⑪		
		私物管理の徹底を図る。ウ⑪		
	基本的生活習慣の確立を図る	公共の場での振る舞いや公共物を大切にする心の育成に努める。ウ⑪⑬		
		挨拶の励行に努める。ウ⑪		
		時間を守る態度を育成する。ウ⑪		
	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	身嗜みを整えた生活が送れるよう、学年全体で共通理解を図り指導する。ウ⑪		
		素直な心の育成並びに場面に応じた適切な行動ができるよう支援する。ウ⑪⑬		
		学校行事や修学旅行など様々な場面で、自らを律しながら他者と協調できるよう支援する。ウ⑪⑫		
第3学年	基礎学力の向上と進路実現に向けた支援	進路ガイダンスやインターンシップ等を通して、進路意識の高揚を図る。イ⑦		
		チャイム着席と授業準備を徹底し、主体的に授業に取り組む態度を育成する。ア①③		
		I C Tを活用し、学習意欲の向上と、基礎学力の定着を図る。ア①③		
	基本的な生活習慣の確立	各種検定試験の受験者並びに合格者の増加を目指す。イ⑨		
		進学・公務員希望者のための情報提供や学習支援に務める。イ⑩		
		T P Oに合わせた挨拶や言葉遣い等を身につけることができるよう支援する。ウ⑪⑫⑬		
	教室内外の環境整備	身嗜みを整えた生活が送れるよう、学年全体で共通理解を図り指導する。ウ⑪		
		清掃の徹底を図り、教室内外の環境整備に努める。ウ⑪		
		ロッカーを有効に活用し、私物管理の徹底を図る。ウ⑪		
	人間性・社会性を養う教育活動の充実	素直な心の育成や場面に応じた適切な行動を実践できるよう支援する。ウ⑬		
		学校生活、学校行事等を通して、自らを律するとともに、他者との協調性を育成する。ウ⑪⑫		
	個に応じた進路希望の実現	総合的な探究の時間、L H R、学校行事の中で、進路に関するセミナーやキャリアカウンセリング等を計画し、情報提供や進路意識の高揚を図る。イ⑦エ⑬		
		就職希望者の内定率100%、進学希望者の合格率100%の実現を目指す。イ⑥⑦⑩		
		個別面談の充実を図り、個に応じた進路指導を実践する。イ⑥⑩		

※評価基準

上記具体的方策についてA、B、C、Dの4段階評価を行う。

A 達成されている

B ほぼ達成されている

C あまり達成されていない

D 達成されていない